

水稻中期管理講習会 資料

令和3年7月19、20日
JAたかさき
西部農業事務所普及指導課

栽培管理

生育時期	水管理	注意点等
分けつ前期	浅水	<ul style="list-style-type: none">ガスの発生がある場合は、間断かん水を実施し、有機物の分解に伴う根部の機能低下を防止する
分けつ後期 移植後30～35日	中干し	<ul style="list-style-type: none">有効茎数が確保されたら5～7日程度実施土に小ひび（深さ1cm以内）が入り、足跡がつく程度で終了中干しの効果：無効分けつの抑制、根の健全化、倒伏防止 <p>※コシヒカリ等倒伏しやすい品種→早め（長め）</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>◎1株当たり有効茎数の目安 コシヒカリ、ひとめぼれ：18～20本 あさひの夢、ゆめまつり：20～22本 程度</p></div>
最高分けつ期 田植後37～40日	間断かん水	<ul style="list-style-type: none">中干し後の根は根腐れを起こしやすいので、走水で徐々に入水し、間断かん水（2日たん水・3日落水）を実施
幼穂形成期 出穂期前25日頃	浅水	
減数分裂期	間断かん水	
穂ばらみ期 出穂期 穂そろい期	たん水	<ul style="list-style-type: none">出穂期7日前後は、水を切らさないようにする
乳熟期	間断かん水	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"><p>高温時の水管理 （高温登熟障害対策）で 玄米品質の低下を 防ぎましょう</p></div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><ul style="list-style-type: none">出穂後20日間の日平均気温が27℃を超えるとき（最高気温30℃以上、最低気温25℃以上）フェーン現象などで強風が予想されるとき →必ずたん水とし、可能であれば、かけ流し、夜間かん水、かん水回数を増やすなどこまめな水管理</div>
黄熟期 出穂後30日以降	落水	<ul style="list-style-type: none">早期落水は登熟阻害の原因となるため、落水は出穂後1ヶ月以降とし、乾燥しすぎる時は走り水を行う

カリの中間追肥

【効果】 登熟歩合の向上・粒の肥大・稈質の強化・根張り向上
→倒伏防止・病害抵抗性の向上・高温登熟障害対策につながる

施用適期：出穂前30～50日

施肥量：ケイ酸加里 30kg/10a、または塩化加里 10kg/10a

穂肥

【効果】 1穂粒数の増加、粒の肥大促進、登熟歩合の向上
稲体の活力維持を行うことで高温登熟障害対策としても有効

品種名	窒素分量(kg/10a)	時期	幼穂長(目安)
あさひの夢	2～3	出穂前20日頃	約0.5cm
ゆめまつり			
ひとめぼれ	2	出穂前15日	約2cm
コシヒカリ	1.5～2	出穂前10日	約12cm

※葉色が濃い場合などは穂肥の量を調整し、窒素過多で倒伏や病害が発生しないよう注意

雑草防除

雑草の種類や大きさを確認し、除草剤の散布適期を失ないように防除を行う。

適用雑草	商品名	使用時期
ノビエ、アゼガヤ	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg/10a：移植後7日～ノビエ4葉期 (ただし、収穫30日前まで)
		1.5kg/10a：移植後25日～ノビエ5葉期 (ただし、収穫30日前まで)
	トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5葉期まで (ただし、収穫50日前まで)
ノビエ、多年生広葉雑草	アトトリ 豆つぶ250	移植後14日(イネ5葉期以降)～ノビエ4葉期 (ただし、収穫45日前まで)
水田一年生雑草、オモダカ、クログワイ、ホトメ	レブラス 1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 (ただし、収穫60日前まで)
水田一年生雑草(イネ科を除く)、オモダカ、クログワイ、ホトメ	バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	移植後15～55日 (ただし、収穫60日前まで)
一年生雑草、多年生広葉雑草	ワイドアタック SC	移植後20日(イネ5葉期以降)～ノビエ6葉期 (ただし、収穫30日前まで)

【発生が増えている雑草】

ホソバヒメミソハギ

- ・後発の個体は、中干し頃にバサグラン粒剤等で除草する
- ・それでも取りこぼしがある場合、次作で急激に増加するので、可能であれば抜き取りで除去する



いもち病

※育苗中に葉いもちが発生、早めの防除を

【発生しやすい条件】

- ・平均気温19~25℃ ・降雨頻度が高く、多湿
- ・夜間の風が弱く、朝露の乾きが遅い
- ・イネが軟弱徒長気味で葉色が濃い

【防除対策】

- ・補植用の取り置き苗は、速やかに処分する
- ・定期的に観察し、早期発見に努め、葉いもちの初期病斑の発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う
- ・穂いもち防除 粒剤：出穂20日前から 液剤：穂ばらみ期及び穂そろい期



穂いもち



葉いもち初期病斑

薬剤例	オリブライト250G(豆つぶ)	ゴウケツ粒剤・パック
	ノンブラスフロアブル	カスミン液剤

BLASTAM(アメダス)：前橋

いもち病発生指標●：好適条件、○：準好適条件

7/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
-	-	-	●	●	-	●	-	●	●	-	-				

稲こうじ病

※前年多発ほ場・出穂20日前~出穂期頃の低温・日照不足・多雨

【防除対策】

で発生しやすい

- ・適切な施肥、遅効きにならないように追肥にも注意する
- ・発病したもみは早期に取り除く

＜散布予定日をカレンダーに書き込んでみてください＞

- ①稲こうじ病は、薬剤の効果のある時期が限られています
- ②使用する薬剤の種類を選び、幼穂を確認して、散布する日を決めましょう

薬剤例	ドイツボルドーA ○	出穂前15日ころ	幼穂約2cm
	モンガリット粒剤 ■	出穂前18日ころ	幼穂約1cm

令和3年8月 例) ゆめまつり 田植え6/25~30						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9 ■	10 ○	11	12 ○	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27 出穂期	28
29	30	31				



紋枯病

※紋枯病の発生は倒伏を助長するため、多発ほ場では防除を行う

【発生しやすい条件】

- ・前年に発病した株に形成された菌核が病気の原因となる
- ・幼穂形成期以降の高温・多湿条件が続くと多発する
- ・窒素過多等で過繁茂・軟弱徒長で発生しやすい

【防除対策】・防除適期：幼穂形成期～出穂期



紋枯病に起因する倒伏

薬剤 例	モンガリット粒剤
------	----------

イネ縞葉枯病

(ヒメトビウカが媒介するウィルス病)

- ・本病の発病およびウんカの発生が見られるほ場では、適期防除につとめ、後期感染による穂の出すくみを防ぐ

【防除対策】・本田防除を行う場合は、箱施用剤と同一系統の薬剤の連用に注意

薬剤 例	ダントツ粒剤	スミチオン乳剤
------	--------	---------

収穫適期の目安

適期収穫に努め、刈り遅れによる品質低下を防ぐ
 コンバイン収穫は、籾水分25%以下になってから行う
 積算温度や帯緑色籾歩合は参考とし、籾水分を見ながら総合的に判断

品種ごとの収穫適期（水分25%以下）目安		
品種	出穂後の積算温度	帯緑色籾歩合
あさひの夢	1000℃～1100℃	10%
ゆめまつり	1000℃～1150℃	20%
コシヒカリ、ひとめぼれ	950℃	10%

※出穂後の積算温度・・・出穂期以降の日平均気温を足し上げた数値

※帯緑色籾歩合・・・穂の中で一部でも緑色の籾の割合

乾燥・調製

脱穀籾は含水量が高く変質しやすいため、計画的に刈取り

収穫後すみやかに乾燥を行う

- 籾の水分含量が18%までは通風のみで乾燥、その後送風温度40～50℃以下、穀粒温35℃以下を目安に加温乾燥し、定期的に水分含量を調べる

- 水分目安

仕上がり水分含量	もみ	14.0～14.5%
	玄米	14.5～15.0%

※過乾燥は同割れ米を増加させ、食味を低下させるので注意する

- 米選機の網目は1.80mm以上とし、整粒歩合80%以上を目標とする

※本資料記載農薬は、令和3年7月7日現在登録のあるものです。

◎農薬使用時は、ラベルを確認し、使用時期・使用方法・使用量を遵守しましょう。

また、周辺に飛散させないように注意しましょう。

◎農作業時の事故には十分に注意しましょう。

◎熱中症に注意して無理の無い作業を心がけてください。